

Annual Report 2019



はじめに

当センターは、公正で持続可能な社会の実現というミッション達成に向けて、政策提言活動を強化すべく、2018年に省庁・国会の近隣の溜池山王の新事務所に移転いたしました。その後、継続的に連携していただけた組織（NGO・協同組合・企業・省庁・政党・国連・財団等）が増え、活動面や資金面で支援していただきました。また、国内外からのインターン、及び、定期的・継続的に関わる社会人のボランティアの方々も増え、活動強化に大きく貢献していただきました。公正で持続可能な社会をつくるという当センターのミッション達成にはまだ道半ばですが、公的・民間金融機関（特に民間銀行）の環境社会配慮方針改善・強化、気候変動問題に対処するための日本政府の海外貢献策進展、日本政府・企業・協同組合・NGO等のSDGs（持続可能な開発目標）取組進展、地域活性化の取組進展等に貢献することができました。

代表理事 古沢広祐

事務局長 足立治郎



特定非営利活動法人（NPO 法人）
「環境・持続社会」研究センター（JACSES）

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-4-10 赤坂三鈴ビル 2F

Tel: 03-3505-5552/5553 Fax: 03-3505-5554

E-mail: jacsces@jacsces.org URL: <http://www.jacsces.org>

1. 持続可能な開発と援助プログラム

本プログラムの目標は、途上国で実施される開発プロジェクトにおいて環境破壊・人権侵害をなくし、持続可能な開発を実現することです。本年度は以下の調査・政策提言・啓発活動を行いました。

【活動の概要】

民間銀行・保険会社の環境社会配慮方針の改善

大手民間金融機関の環境社会配慮方針をスコアリングする Fair Finance Guide (fairfinance.jp) を他 NGO と共同で運営し、7 銀行、8 保険会社を対象としたスコアリングを行いました。大手 13 か国の NGO から構成される国際ネットワークへの参加、日本コアリションの運営、投融資方針の調査、金融機関の炭素関連資産に関するケース調査、銀行・保険会社との対話・働きかけ等を担当しました。



世界銀行 IMF の総会にて、金融機関の ESG に関する共同セミナーを開催

金融機関による石炭火力発電事業への投融資・保険引受停止

気候変動に深刻な影響を及ぼす海外の石炭火力発電事業への金融機関による投融資・保険引受の停止を目的として、調査・提言活動を実施しました。国会議員・政府関係者・国際協力銀行 (JBIC)・国際協力機構 (JICA)・民間銀行・保険会社・メディアへの提言・働きかけなどを実施しました。また、JICA が支援中のバングラデシュにおけるマタバリ石炭火力発電計画の調査・提言を実施しました。



G20 大阪サミットにて、日本の石炭支援に関する記者ブリーフィングを共同開催

省庁・開発機関との政策対話の強化

開発政策に影響のある財務省との政策対話を強化するために、財務省 NGO 定期協議の開催コーディネートを担いました。また、環境省、外務省、JICA、ジェトロの環境社会配慮関連の委員会にも参画しました。

情報提供・発信

ウェブサイト (日本語・英語) などで、政策担当者・国内外 NGO・メディア・研究者・企業等に定期的に情報提供を行いました。また、当センターの活動が、BBC、朝日新聞、共同通信、東洋経済、世界 (岩波) 等のメディアに掲載されました。

【主な成果】

- Fair Finance Guide の働きかけや世論の高まり等もあり、投融資方針等を改善した農林中央金庫、日本生命等の Fair Finance Guide スコアが大きく向上しました。
- 日本政府が海外の石炭火力発電事業への支援方針の改訂作業開始を発表し、環境省・経産省等で議論が行われています。
- 三菱 UFJ、みずほ、三井住友が石炭火力発電の投融資方針を改善しました。また保険会社のひとつも方針の策定を検討中です。
- 国際協力機構 (JICA) が支援中のマタバリ石炭火力発電事業 (バングラデシュ) において、JICA が被影響住民の生計回復等の問題を認識し、JICA と住民との直接対話が行われました。

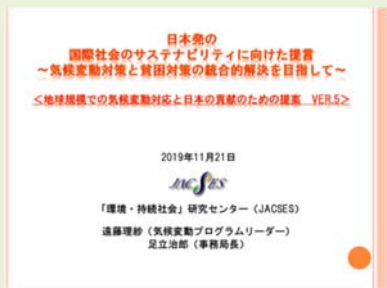
2. 気候変動プログラム

本プログラムの目標は、日本・世界が現実気候変動に対処するために、世界規模でのあらゆる温室効果ガスの削減と脆弱層・貧困層を含む世界の人々の気候変動への適応策を実現することです。本年度は、昨年度に引き続き、CO2 及びその他の温室効果ガス削減及び適応策を進めるための日本政府による国際協力政策推進に特に焦点を当て、提言・普及啓発活動を行いました。

【活動の概要】

提言・レポート発表

「日本発の国際社会のサステナビリティに向けた提言～気候変動対策と貧困対策の統合的解決を目指して～<地球規模での気候変動対応と日本の貢献のための提案 Ver.5>」を COP25 に向け発表（主催セミナー、COP25 での環境大臣・NGO 会合、関係省庁〈外務省・経済産業省等〉との会合、原稿寄稿、講演招聘等）。また、本提言に解説・用語説明等を付したレポートも発表。温室効果ガス削減策（CO2 以外のガスも含め）や脆弱層・貧困層への適応策強化、途上国の透明性向上支援強化等を含む日本の気候変動対策における更なる貢献策推進を提起しました。



<http://jacses.org/559/>



<http://jacses.org/report/>

日本発の国際社会のサステナビリティに向けた提言・レポート

イベント開催/参画・メールマガジン発行

以下の活動を通じて、提言・情報発信を行いました。

- ・衆議院議員会館にて「<COP25 カウントダウンセミナー>気候変動ファイナンス（公的資金&ESG 投資）の最新トレンドと今後」開催
- ・グローバルフェスタ 2019 へのブース出展
- ・COP25（気候変動枠組条約第 25 回締約国会議）やドイツ・ボンで開催された補助機関会合等への参加
- ・メールマガジン「New Climate Policy Express—世界の今、日本のこれから」発行 等



グローバルフェスタ 2019 出展の様子

【主な成果】

- 発表した提言 ver5 に対し一定の理解・評価（賛同の声や提言に関する寄稿・講演依頼等の増加）を得られ、日本による途上国の透明性向上/資金支援（コ・イノベーションのための透明性パートナーシップ〈PaSTI〉参加国増加、緑の気候基金〈GCF〉追加拠出確約等）に関する政策進展に寄与できました。また、弊センタースタッフが 2019 年 12 月にスペインで開催された COP25 において、NGO メンバーとして日本政府代表団に参加しました。
- COP25 において、世界的にエアコン等の冷媒として需要が増している温室効果ガスの 1 つであるフルオロカーボンの排出抑制に取り組む「フルオロカーボン・イニシアティブ」が日本発で設立・発信され、CO2 以外の温室効果ガス対策に進展が見られました。

3. SDGs（持続可能な開発目標）・SCP（持続可能な消費生産）プログラム

本プログラムの目標は、環境・社会・経済課題の統合的解決をはかる国連「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）」の達成に向けた取組の促進、及び、ポスト SDGs も視野に入れた SDGs 取組を補完する取組の推進、さらに、持続可能な消費生産（Sustainable Consumption and Production : SCP）の実現を牽引していくことです。本年度は、以下の活動を行いました。

【活動の概要】

政策提言・国際会議参画

当センタースタッフが事業統括会議進行役・環境ユニット幹事として参画する SDGs 市民社会ネットワーク（SDGs に取り組む NGO 等が 100 団体以上加盟）と連携し、SDGs 推進のための国家戦略である SDGs 実施指針改定（2019 年 12 月）に向けて、日本政府へのパブリックコメント提出や、外務省等の省庁・与野党との会合において意見交換/提言を行いました。

また、以下の国際会議にも参画し、海外ステークホルダーに対して弊センターや協働しているネットワークの活動/提言のインプットを行いました。今後も、こういった国際会議に積極的に参加し、様々なステークホルダーとのネットワークを強化していく予定です。

- ・ Open SDGclub.Berlin meeting2019（German Council for Sustainable Development 主催）
- ・ 国連ハイレベル政治フォーラム
- ・ 北東アジア SDGs マルチステークホルダー・フォーラム（国連アジア太平洋経済社会委員会主催）



Open SDGclub.Berlin meeting2019 の様子

政府機関の支援

政府機関（環境省等）の SDGs 取組（企業・自治体等の様々なステークホルダーの取組/連携を促進・政策をプロモートする会合開催等）を支援しました。

寄稿・講演を通じた SDGs 取組支援

以下の様々な団体からの寄稿・講演依頼に対応して情報・提言発信を行い、様々なステークホルダーの SDGs 取組推進を支援しました。

- ・ JANIC「HAPPINESS IDEA CONFERENCE 気候変動×生物多様性×SDGs ランチセッション」登壇
- ・ NGO と企業の連携推進ネットワーク第 56 回定例会登壇
- ・ サステナビリティ CSO フォーラム寄稿
- ・ SDGs 市民社会ネットワーク「基本解説そうだったのか。SDGs」寄稿 等

【主な成果】

- 日本政府による SDGs 実施指針改定プロセスや内容等に、弊センターがインプットを行った市民社会による提言が活用されるとともに、企業・自治体・協同組合等による SDGs 取組進展に貢献しました。
- SDGs の文脈で寄稿/講演等を行うことによって、これまで連携できていなかったステークホルダー（ジェンダーや人権等の環境以外の課題に取り組む NGO 等）とのネットワークが強化されました。

4. 地域活性化・地方創生プロジェクト

本プロジェクトの目標は、そこに住む人々が生き生きと暮らせる、環境・社会・経済のあらゆる側面で持続可能かつ活力ある地域社会の実現に貢献することです。本年度は、以下の活動を行いました。

【活動の概要】

庄内 FEC 自給ネットワーク取組に関する情報発信支援

2018 年度に作成協力した解説ブックレット『—ここまで実現した！—「庄内 FEC 自給ネットワーク」の“いま”と“これから” 持続可能で豊かな地方をつくる生産者と生活者の新たな構想』に対する反響が大きかったことから、多様なステークホルダーのさらなる巻き込みを目指して、庄内 FEC 自給ネットワーク取組の全体像普及や SDGs・地域活性化推進における協同組合の役割検討等を目的としたシンポジウムの企画立案・開催準備に協力しました。（新型コロナウイルスのため開催延期）



2018 年度作成の解説ブックレット

【主な成果】

- シンポジウムの企画立案・開催準備を通して、協同組合関係者との連携・協力体制が構築されました。
- 解説ブックレットの作成・普及により、取組の全体像や具体事例が生協以外のステークホルダー（関係省庁や他の協同組合関係者等）にも認知され、取組拡大に向けて外部との連携が進んでおり、様々な支援を得られる可能性が高くなりました。

5. その他の活動

当センターでは、上記のプログラム・プロジェクトに加え、以下の活動等を行いました。

【活動の概要及び主な成果】

税財政プログラム

持続可能な開発と援助プログラム・気候変動プログラム等と連動し、政府の税財政措置改善と企業等のその活用に向けた普及啓発に貢献しました。

NGO 強化プロジェクト・人材育成

気候変動プログラムや SDGs・SCP プロジェクト等の活動を通じ、連携団体や参加ネットワークの運営・マネジメント・戦略策定等に協力しました。また、弊センターに直接申し込むインターン生に加え、他団体・大学等（NPO 法人ドット JP、カリフォルニア大学、国際教育交換協議会〈CIEE〉/アカデミック・インターンシップ・カウンスル〈AIC〉）から派遣されるインターン生も国内外より積極的に受け入れました。

6. 組織体制と会計報告

JACSES スタッフ／理事		2019 年度会計報告（単位：円）	
代表理事	古沢広祐（国学院大学客員教授）	収入	
理事	土井二郎（築地書館社長）	会費収入	138,000
	伊藤康（千葉商科大学教授）	寄付収入	105,000
	和田喜彦（同志社大学教授）	助成収入	70,862,503
	足立治郎（事務局長）	委託請負収入	4,392,658
	田辺有輝（持続可能な開発と援助プログラムディレクター）	書籍収入	2,160
監事	濱野泰嘉（弁護士）	雑収入	110
顧問	小原秀雄（女子栄養大学名誉教授）	計	75,500,431
	宮本憲一（元滋賀大学学長）	支出	
スタッフ	遠藤理紗（事務局次長）	事業費	
	山縣萌香、宋漢娜、清水綾夏	開発と援助プログラム	53,100,557
	高野有華、川端将太郎	気候変動プログラム	8,771,620
客員研究員	西俣先子、勝木一郎	SDGs・SCP プログラム	5,733,279
		地域活性化プロジェクト	1,703,303
		小計	69,308,759
		管理費	
		管理業務人件費	2,378,800
		消耗品費	35,739
		賃借料	3,039,021
		通信費	96,065
		借損料	176,994
		諸会費	50,000
		水光熱費	213,606
		雑費	9,276
		公租公課	69,900
		小計	6,069,401
		計	75,378,160
		当期損益	122,271

<最後に>

1993年の当センター設立以来、様々な方々・組織の支援を受けて活動を進めてまいりましたが、当センターのミッションである公正で持続可能な社会の実現に向けて活動をさらに充実・飛躍させていく必要があります。つきましては、皆様の一層の御協力・御支援を是非宜しくお願い申し上げます。